

埋文 あらかると

博物館実習は、学芸員資格取得を希望する学生に対して行う実地研修です。博物館に関する人材育成及び博物館活動の普及を行うことを目的にしています。

毎年、当センターでは、地元の大学を中心に学芸員資格の取得をめざす学生を博物館実習生として、受け



博物館実習

入れています。今年度の博物館実習では9名の実習生を受入れました。期間は7月27日(木)から8月8日(火)までの8日間で実施しました。

当センターでは、体験教室の運営補助と課題作成がカリキュラムのメインとなっています。体験教室はふるさと考古学教室と連携し、特にガラス玉づくりの講師を実習生たちに担当していただいている。その内容は作成の手順、注意事項など多岐にわたります。

課題作成は、その年度により作成物は異なりますが、本年度は県指定有形文化財の収納箱の作成を行いました。石器の天地・表裏などあまり触れることのない旧石器の資料を手



に取りながら、ウレタンマットを石器の複雑な形状にあわせカットしました。作成したケースは今後センターでの資料の収納ケースとして使う予定です。

なお、来年度は1月に実施要項をホームページ上で公開する予定です。

(高橋 真実)

14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から、行動領域が広がり活動的になる中学2年生が、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけることができるよう、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。今年度は富山市内の中学校から6名の生徒を受入れました。

館内・館外清掃、体験道具のメンテナンスや、出土品の解説学習などを行いました。ガラス拭きの様子を

見ていると、初めの時には機械的に拭いているだけでしたが、「お客様の立場にたってガラスを拭いてみよう」というアドバイスにどこによく手の跡が付くかなど考えてガラスを拭くようにしていました。

最終日には、他の施設で職場体験をしている中学生に展示解説と火起こし体験の指導を行いました。最終日の展示解説に向けて職員の展示解説を基に、自分の伝えたい内容を加えて自分なりの解説を考えました。わかりやすく伝えるために、休憩時間を使って自分たちで解説の練習も



していました。本番の展示解説は練習の成果を発揮し、自信をもって堂々と行っていました。

後日届いた礼状には、職場体験を通して、自分の役割に責任をもって働くことの大変さや、人のためになることの喜びを学ぶことができたと書いてあり、短い期間であっても子供たちにとって意味のあるものになったことをうれしく思いました。

(米田 大介)